



温もりをお届け

初めての配食を味わいながら、足りないのは「おしながき」と所望して此の方ワンコインで手を汚さずに心身を満たしてもらえ有り難さをしみじみ。

この取り組みを介して得られる繋がり、思いを馳せながら、「では早速、そしてごちそうさまでした。」
(和田 幸子)

温もりをお届け(女性部配食サービス)

※女性部では、少しでも美味しいお弁当を届けようと、年2回調理講習会を開催し、真心を込めてお弁当を作っています。
これからも待っている皆さまの笑顔を思い浮かべ、一生懸命作りますのでよろしくお願ひします。



美味しそうなお弁当!

元より当地域では、津波被害は想定外ではありますが、大地震や原発事故はそう遠くない時期での発生は必至でしょう。実はあの時は海外旅行の発日。現地のニュースで日本での大震災発生を知りま



いわき震災伝承みらい館にて

あの未曾有の大災害をもたらした東日本大震災から15年。社協東支部主催の福祉推進員研修に参加、「いわき震災伝承みらい館」を訪れました。震災語り部の談話、DVDによる被害映像、展示物等で改めて記憶を新たにし、忙しさにかまけて忘れがちな防災共助意識をリセットする機会となりました。

発生から8日後にどうにか成田に帰国できました。そう、天災・人災は思いがけないころにやってくるんです。
(柿橋東区長 尾崎 光雄)



野口雨情記念館前で

いわき震災伝承みらい館・野口雨情記念館を見学 (福祉推進員研修会1/30)

1月10日(土)、風はありましたが比較的暖かい中、初めてワホイ祭りに参加しました。熱い炎、竹のはじける音、焼けた餅の匂い等一気の子供の頃の記憶が蘇った感じでした。長い時間準備をして、当日は短い時間で終わりましたが、役員の方々の頑張りにより、参加者の明るい笑顔となったようです。
(広報委員)

ワホイ祭り 無病息災!



1月11日(日) 原店地区の”どんど焼き”は突然の林野火災警報発令により急遽中止に。それでも子供たちは、七輪で餅を焼いたり、餅つきをしたり、じゃんけん大会で大はしゃぎ、楽しい時間を過ごしました。
皆さんが持ち寄ったしめ縄などお飾りは、笠間稲荷神社に責任を持って納めましたのでご安心下さい。「来年こそは盛大に開催できますように!」
(原店1区区長 星野 昇)

どんど焼きは中止も 楽しい思い出に!



みんなでジャンケン楽しかった!



上手く焼けるかな?



未来に伝える神事

高房神社初詣会

当番として、これまで多くの方々が大切にしてきた地域の伝統を受け継ぎ、参拝される方が「今年も良い年にと、清々しい気持ちで新年を迎えられるように心がけています。」

新しい年が明けると同時に無病息災を願い、太鼓を打ちます。これからもあたたかい地域の伝統が続きますようにと、太鼓のバチを振るう手に思わず力が入ります。

(南友部 当番番経験者)



初詣会に集まった人々

香取神社初詣会

初詣会を実施することにより、地域の住民同士の交流が深まり、地域全体が活気づくことが期待されます。このため、毎年開催をしています。すが、現在、運営に携わるなり手が少なく、高齢化も進み活動に支障が出てきています。準備をするにも「味噌汁の具材・お茶やお札の手配・神社の清掃」等、少人数ながらも手分けして頑張っています。

(南友部会 滝本 秀明)



準備を整えて参拝者を待つ

サロン紹介

「サロン悠遊」

2月14日、春霞の中を訪れたサロンでは、恒例のシルバリーハビリ体操で体をほぐした後、ハーモニカに合わせて「早春賦」などの歌声が流れていました。

この日は、今年1年間の活動予定を決める節目の日。協力参加した「サロンの運営者の話も聞きながら、輪投げ・笑いヨガ・ペットボトルボーリングなど、闊達な要望が飛び交って



シルバリーハビリ体操で体をほぐす



運営責任者の話を聞く

ていました。筆者にとって三回目となったサロン訪問。いつも和やかな気分にさせてくれる大切な場所の一つです。※「サロン悠遊」は柿橋団地区のサロンで、柿橋団地公民館で毎月第2土曜日午前9時から開催しています。

(広報委員)

生きがいシリーズ

下手の横好きを楽しむ

飯田三匡 鈴木 義雄

十七音と短いので仕事の合間にも考えられる、という理由だけで始めたような俳句でしたが、入り込めば込むほど奥が深く、いまだに下手の横好きの域を出られません。生

われる俳句は、短くて説明が叶わないが故に他人に伝わりにくく、複数の人間を集めた句会などの場で伝わるかどうか検分する必要があるとされています。A-Iが一瞬にして好みの俳句を作ってしまう世の中で、なかなか気骨の折れる世界でもあります。そんな中で、春になると決まって思い出す



力作? が詰まった俳句手帖

何とも大らかな句があります。人間の欲望には切りがないとしても、こんな一句を残せばそれはそれで本望と言えるのかも知れません。

*雪とけて村いっばいの子どもかな 一茶

私の作品

「加賀ゆびぬき」作り



自作の「ゆびぬき」

「ゆびぬき」づくりを始め、6年になります。ゆびぬきは、加賀友禅の縫い子さんが、余った絹糸を使いゆびぬきをきれいにかがって作ったのが始まりとされています。

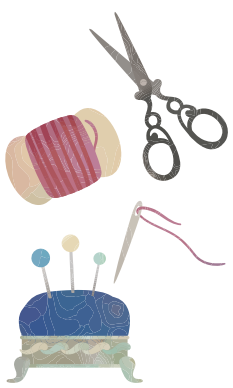
(南友部 ペンネームあっこ)

※皆様からの応募を待っています。

応募については

笠間市社会福祉協議会

(☎77-0730) まで



編集あとがき

「広報紙・ひがし」の発行に際して、地域の皆様のご協力・ご支援のお陰で、予定通り無事発行することが出来、感謝申し上げます。

昨年は近年になく「暑い夏」と、秋が短く「急に冬」という気候でした。温暖化が進んでいるのでしょうか心配です。また、昨年の漢字は「熊」でした。熊の出没も過去最高との事です。締めくくりに漢字が1年の世相を物語っていると言えます。

今年も皆様に喜んで頂ける紙面を目指し、広報委員一同取り組んでいきますのでよろしくお願い致します。

(岩田 孝司)